

「尾道市立大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」自己点検・評価報告（令和5年度）

尾道市立大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門部会

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>経済情報学部は専門教育科目「統計学Ⅰ」（1年次後期）と専門教育科目「マルチメディア論」（2年次後期）の2科目、芸術文化学部は教養教育科目「数理・データサイエンス・AI入門」（1年次後期）の1科目で本プログラムを構成している。「数理・データサイエンス・AI入門」は令和5年度新規開講科目である。</p> <p>経済情報学部はプログラム履修科目が複数年次で開講されているため、令和5年度の修了者はまだいない。</p> <p>芸術文化学部は履修者の94%（履修36名のうち修得34名）が修得した。</p> <p>プログラムの履修者は経済情報学部が22.9%、芸術文化学部は8.5%となっている。新入生オリエンテーションでの周知だけでなく、在学生オリエンテーションでも引き続き履修を強く推奨していく予定である。</p>
学修成果	<p>経済情報学部構成科目のうち「統計学Ⅰ」は履修者184名のうち85%の156名が単位修得、芸術文化学部構成科目「数理・データサイエンス・AI入門」は履修者36名のうち94%の34名が単位修得した。</p> <p>また、各学期終了時に学生へ「授業改善アンケート」を実施し、その評価項目から学生への教育効果を分析している。</p> <p>その「授業改善アンケート」において、「教員は学習の目標、課題をはっきり示していましたか。」という評価項目について、経済情報学部構成科目については90%、芸術文化学部構成科目については69%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。</p> <p>この結果は各教員にフィードバックし、授業改善を図り、教育効果を高めていく。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>「授業改善アンケート」において、「正確な専門知識・技術が学べる授業でしたか。」という評価項目から、学生の理解度を確認した。経済情報学部構成科目については96%、芸術文化学部構成科目については75%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。</p> <p>この結果は本プログラム構成科目の授業内容を改善するための参考とし、次年度の教育プログラムの企画・開発、授業改善の検討材料とする。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学	<p>「授業改善アンケート」において、「この授業に対する総合評価を示してください。」という評価項目については、経済情報学部構成科目については9</p>

生への推奨度	8%、芸術文化学部構成科目については82%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。また「授業改善アンケート」の結果を受けて、教員がコメントを行い、改善を図っている。これらのことをオリエンテーションでも周知し、後輩等他の学生の履修を促す。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	当初プログラム構成科目を構築するにあたり、経済情報学部の既存の専門教育科目で審査項目を満たすことは可能であった。専門教育科目のため芸術文化学部の学生の履修者数と履修率向上が見込めないという判断から、基礎的な内容で構成した教養教育科目「数理・データサイエンス・AI入門」を新規開講した。経済情報学部は既存の専門教育科目をプログラム構成科目に設定し、芸術文化学部の学生が教養教育科目「数理・データサイエンス・AI入門」を履修しやすい状況にした。 プログラム開始2年目となり対象学年が拡大するため、新入生オリエンテーションや在学生オリエンテーションでプログラム科目の履修を引き続き推奨し、履修率向上を図っていく。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和6年3月終了時点で本プログラムを修了した卒業生はいないため、自己点検・評価の対象外とする。 今後、本学主催の企業懇談会等の機会を活用して採用担当者へのヒアリングや卒業生就職先の企業へアンケート調査等を実施して、本プログラム修了者の企業における活躍状況や企業からの評価を調査していく予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	上記同様、本学主催の企業懇談会等の機会を活用して採用担当者へのヒアリングや卒業生就職先の企業へアンケート調査等を実施して、意見や要望を収集する予定である。 また、尾道市公立大学法人が行う「法人評価委員会」では、産業界からも委員を任命している。評価委員会から指摘のあった課題や意見については、改善を行っており、今後は本プログラムについての意見も聴取し、教育プログラムの企画・開発及び実施に反映させていく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「授業改善アンケート」において、「授業の内容は興味深いものでしたか。」という評価項目について、経済情報学部構成科目については96%、芸術文化学部構成科目については63%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。 経済情報学部については、高い評価となっており、学生が関心を深めることができる講義内容としている。芸術文化学部については、学生がもともと興味のある分野ではないため、上記の数字になっている。この結果は各教員にフィードバックし、授業改善を図り、教育効果を高めていく。
内容・水準を維持・向上し	「授業改善アンケート」において、「教員は専門用語をわかりやすく説明し

<p>つつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>た上で用いましたか。」という評価項目について、経済情報学部構成科目については86%、芸術文化学部構成科目については82%が「最も高い評価」もしくは「高い評価」と回答している。このことから、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業を実施している。 この結果は各教員にフィードバックし、授業改善を図り、教育効果を高めていく。</p>
-----------------------------	--